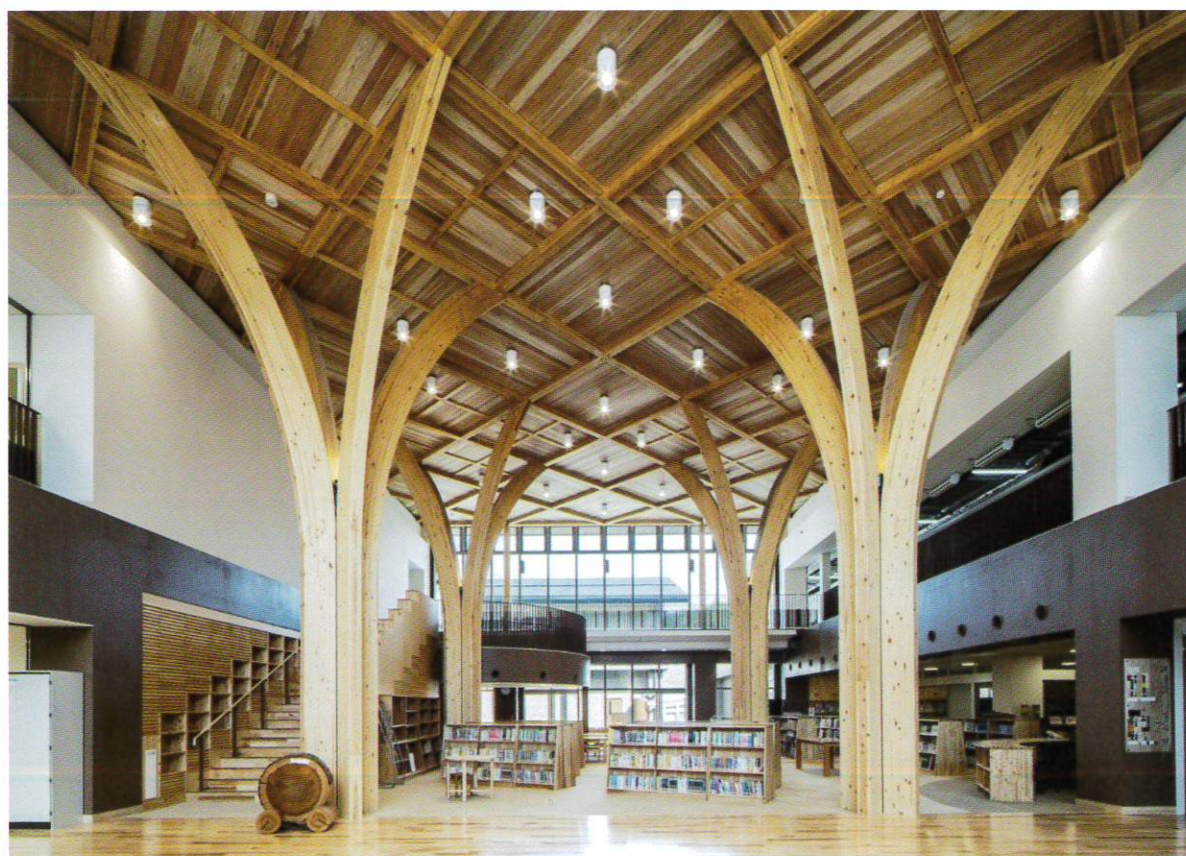

公 学 建 会 報 第40号

全国公立学校建築技術協議会



京都市立京都京北小中学校

4 和歌山県立南紀・はまゆう統合支援学校（仮称）整備事業について

和歌山県教育庁教育総務局総務課

1 はじめに

「南紀支援学校」は昭和42年に開校、肢体不自由のある児童生徒を対象とし、隣接する南紀医療福祉センターに併設される南紀療育園（医療型障害児入所施設）に入所している医療的ケアなどが必要な障害の重い児童生徒も通学しています。また、近隣にある「はまゆう支援学校」は昭和52年に開校、知的障害のある児童生徒を対象とし、隣接する南紀あけぼの園（福祉型障害児入所施設）に入所している児童生徒も通学しています。

両校の在り方については、特別支援教育に対するニーズや特別支援学校の役割が多様化する中、平成18年9月、第7期きのくに教育協議会において、「南紀支援学校とはまゆう支援学校の統合を早期に実現し、複数の障害種に対応した特別支援学校のモデル校への再編を検討することが適当である」との提言がなされました。

この提言を受け、南紀支援学校、はまゆう支援学校両校では、「南紀・はまゆう統合問題検討委員会」を立ち上げ、平成19年から平成22年にかけて協議を行いました。

これらを踏まえ、和歌山県教育委員会は、多方面から検討を行い、平成28年3月、「南紀支援学校・はまゆう支援学校両校を統合する方向性」を決定し、具体化を進めてきました。

このたび、みなべ、田辺・西牟婁地域の特別支援教育を牽引する拠点校として両校を統合し、障害のある子供たち一人一人の可能性を最大限に伸ばし、自立・社会参加するために必要な力を育む教育の充実を図るため、令和5年4月の開校に向けた整備を進めているところです。

建設工事については、南紀支援学校の敷地に段階的に新校舎を建設する計画であり、令和元年度から着手し、工期を第1期から第3期に分けた上で、新校舎の一部が完成した段階で施設の一部供用を開始しながら、令和5年度の完成を目指しております。

2 施設概要

- (1) 所在地：和歌山県西牟婁郡上富田町岩田1787-1
- (2) 用途地域：無指定（建ぺい率：60%、容積率：200%）
- (3) 構造規模：RC造 地上2階建て（一部3階）
敷地面積：18,685.05㎡
延べ床面積：15,329㎡
- (5) 用途規模：特別支援学校
肢体不自由部門：15教室
知的障害部門：33教室《聴覚障害4教室含む》
児童生徒想定人数：185人
- (6) 総事業費：約86億7千万円（設計費、一部校舎等解体・グラウンド整備費を除く）
- (7) 工事期間：令和元年9月から令和5年9月末完成予定
（一部校舎等解体・グラウンド整備期間を除く）
- (8) 設計者：内藤・フジ設計共同体

3 整備スケジュール

平成28年度	基本計画策定
平成30年1月～平成31年3月	基本設計・実施設計
令和元年9月～令和2年3月	解体撤去工事（教室棟、体育館、寄宿舍、プール等）
令和2年7月～令和3年12月	第1期工事（教室棟、寄宿舍）
令和3年10月～令和5年9月	第2期工事（管理特別棟、体育館、プール等）
令和6年度～	第3期工事予定（一部校舎等解体、グラウンド整備）

4 設計基本方針

《 “やさしく、あたたかく、生命力に満ちた” 紀の国の学び舎 》

古来、熊野の地は「蘇りの地」と言われてきました。この地には、人間本来の生命力を賦活^{よかつ}させる自然の力があります。木の香りにあふれ安心感に満ち、一人一人の要望や成長の力となり、やがて希望に満ちた社会への旅立ちを支えていける学び舎を目指します。自然エネルギーを活用するとともに、“川の流れ” “木の息吹” が感じられる生命力に満ちたキャンパス整備を行います。

(1) 多様な教育的ニーズに対応できる空間づくり

- ・子供たちにとって社会へ旅立つためのステップアップの場として「身体をつくり、心の成長に寄り添える」多様な学びのシーンが広げられる場
- ・回遊性のある平面の利点を活かし、様々なスペースを設けた出会いと触れ合いの空間

(2) 安心・安全・快適な学習環境の整備

- ・学年や障害を問わず分かりやすいサイン、成長に合わせた2段手摺、転落防止手摺、スロープの設置など、様々な子供たちに対応できるバリアフリーユニバーサルデザインの導入
- ・遮音性・耐久性に優れ、振動にも強いRC造とし、様々な学びや交流活動に支障がない構造

(3) 地域の特別支援教育の拠点づくり

- ・地域コミュニティと連携した学習、訓練、交流等のセンター機能を発揮できる場
- ・統合により閉校する「南紀支援学校」と「はまゆう支援学校」の記憶や歴史を新しい学校の子供たちに伝えていく『学校ギャラリー』の設置

(4) 一人一人に寄り添う相談支援の充実

- ・多様な進路の選択や、一人一人の興味や関心に対応できる、ウエルカムで開かれた場
- ・プライバシーに配慮しながら安心して相談できる環境

(5) 自立と共生を促す職業訓練教育の充実

- ・社会参加の意識を促し、現実的な能力を高めていくための職業訓練スペースにおける地域住民や企業が参加しやすい環境づくり
- ・スポーツやイベント等の交流を通して地域に開かれ、積極的に活動できる環境づくりを行い、子供たちの自立と社会参加を地域社会全体で支えられる学校

5 配置計画

- (1) 中庭を持つ2階建て（一部3階）を基本とした低層建物とし、圧迫感のない親しみの持てるボリューム設計とする。
- (2) 前面道路に併設する形で学校に寄宿舍を近接配置する。

- (3) 前面道路側にバスプラットホームと駐車場を計画する。
- (4) 地域利用、外部利用を考慮して体育館、職業館を前面道路側に配置し、体育館、職業館、地域研修などの専用出入口を設ける。
- (5) 安全・安心で管理しやすい動線計画とする。
 - ①東側道路は湾曲しているため道路中腹からアプローチし、見通しの良い北側へ抜ける一方通行とする。
 - ②バスプラットホームは全台数が同時利用できるよう段型の寄り付き形状とし、スペースにも余裕を持たせる。
 - ③保健室出入口には、救急車が横付け、通り抜け可能とする。
 - ④放課後等デイサービスの迎え専用出入口を設置する。
 - ⑤厨房への食材搬入等、サービス専用ルートを確保する。
 - ⑥前面道路への緊急出入口を設置する。
 - ⑦隣接する南紀医療福祉センターへのアクセスは最短距離を確保する。

6 平面計画（校舎等ゾーニング）

障害特性の異なる子供たちがのびのびと成長・交流できる施設とする。

- (1) 子供たちや教職員が安全・安心に過ごせる学び舎を計画する。
 - ①回遊型の八の字型の平面とし、出会いがしらの衝突に配慮する。
 - ②建物の中心は1階をランチルーム、2階を職員室とし、全生徒が利用しやすく、職員が見守りやすい配置とする。
 - ③知的障害、肢体不自由、聴覚障害の学習空間を明確に分け、普通教室は全て南面とする。
 - ④1階に肢体CRと知的（小）CR、2階に知的（中・高）CRと聴覚（小・中）CRを配置する。
 - ⑤2階に聴覚障害普通教室を配置し、音楽室から距離をとる。
- (2) 学校全体で交流が行える施設配置を計画する。
 - ①1階の中庭に面して広く明るいオープンなランチルームを配置し、いつでも好きな時に自由に利用でき、学校全体の交流の場として利用する。
 - ②デン（小部屋）、廊下中央空間、交流ホールなどの子供たちが触れ合える場を計画する。
- (3) 避難室は3階に配置する。

7 外観デザインのコンセプト

- (1) 風景をつくる
 - ①分節したボリュームに特徴ある屋根を架け、“川の流れ”をイメージした水平ラインで調和を図る。
 - ②敷地全体に緑化を図りながら、玄関前や人の溜まりには桜やヤマモモ等の心晴れやかになる植栽をする。
- (2) 木をつかう
 - ①木を外壁や軒下に取り入れ、“木の息吹”が子供たちや来校者を温かく迎える。
 - ②線状、板状等、コストとメンテナンスを考慮して多様で豊かな表情にデザインする。
- (3) 環境を利用する
 - ①教室には庇を設け、雨を防ぎ、風を取り入れ、日照調整を行う。

- ② トップライト、階段室上部に自然換気を促す「風の塔」、太陽光発電等の環境装置を効果的に取り入れる。

8 内観デザインのコンセプト

(1) 自然をデザインする

- ① 生命力に満ちた外観のデザインが交流ホールを通して内部に広がる。
- ② “川の流れ” “木の息吹” をアイデンティティとして取り込む。

(2) 居場所をつくる

- ① 心や身体の成長に対応できる個別の居場所をデザインしていく。
- ② 様々な出会いや交流を通して徐々に広がりが見られるよう多様性のある空間をつくる。

(3) 安心・安全を形にする

- ① 居場所や移動空間が直線的にわかるデザインとし、不安を取り除き余裕をもって行動できる場とする。
- ② 突出部などの危険部位を安全な形状にするとともに、事前に認知できるように明確な形を与え事故を防ぐ。

9 自然エネルギーの活用

所在する上富田町の豊かな自然エネルギー（光・水・風）を活用し、自然に寄り添う「エコスクール・サステイナブルスクール」とすることでライフサイクルコストを低減する。

- (1) 校舎中央に中庭を配置し、自然採光を取り込むとともに、上昇気流効果による重力換気（風の道）を促し、良好な室内空間を保つ。
- (2) 中廊下の中央部分を外気へと開放することで光を呼び込み、風を導入する計画とする。
- (3) 夏の日射を避け、冬の日照を得るために南側開口上部に庇や軒を設ける。
- (4) 樹木の散水等に利用する雨水貯水槽を設ける。

10 風の道の確保

中間期は外部窓（給気）、階段上部の窓（排気）を開けることで、上昇気流効果による重力換気にて「風の道」を形成し、効果的な換気を行う。

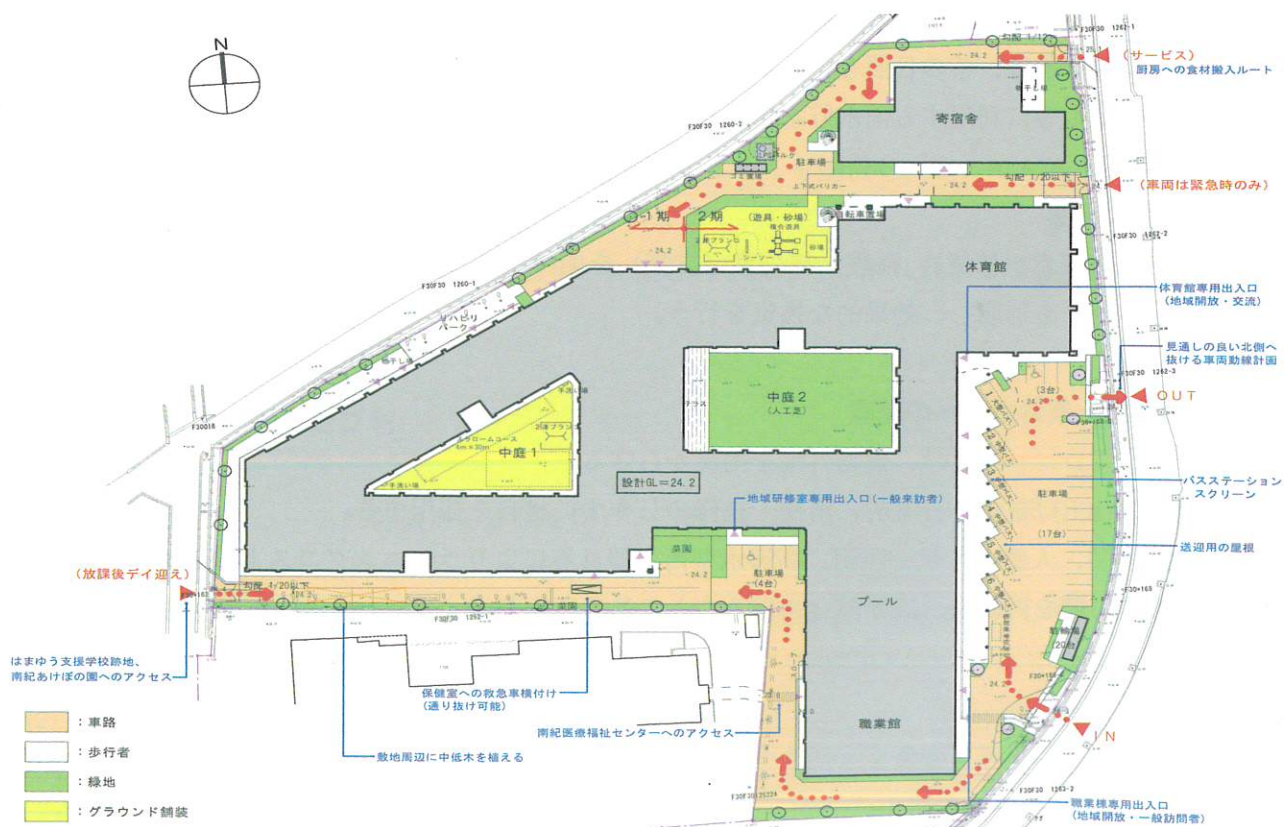
11 維持管理、長寿命化への配慮

- (1) 庇やバルコニーを設け、建物外壁を雨風から守る。
- (2) 内装の仕上げ材は、日常的に清掃・補修のしやすい材料を採用する。
- (3) LED照明、人感センサー照明、高節水型衛生器具等によりランニングコストの削減を行う。
- (4) 西日の影響を抑制し、高断熱化を図ることで熱負荷を削減する。

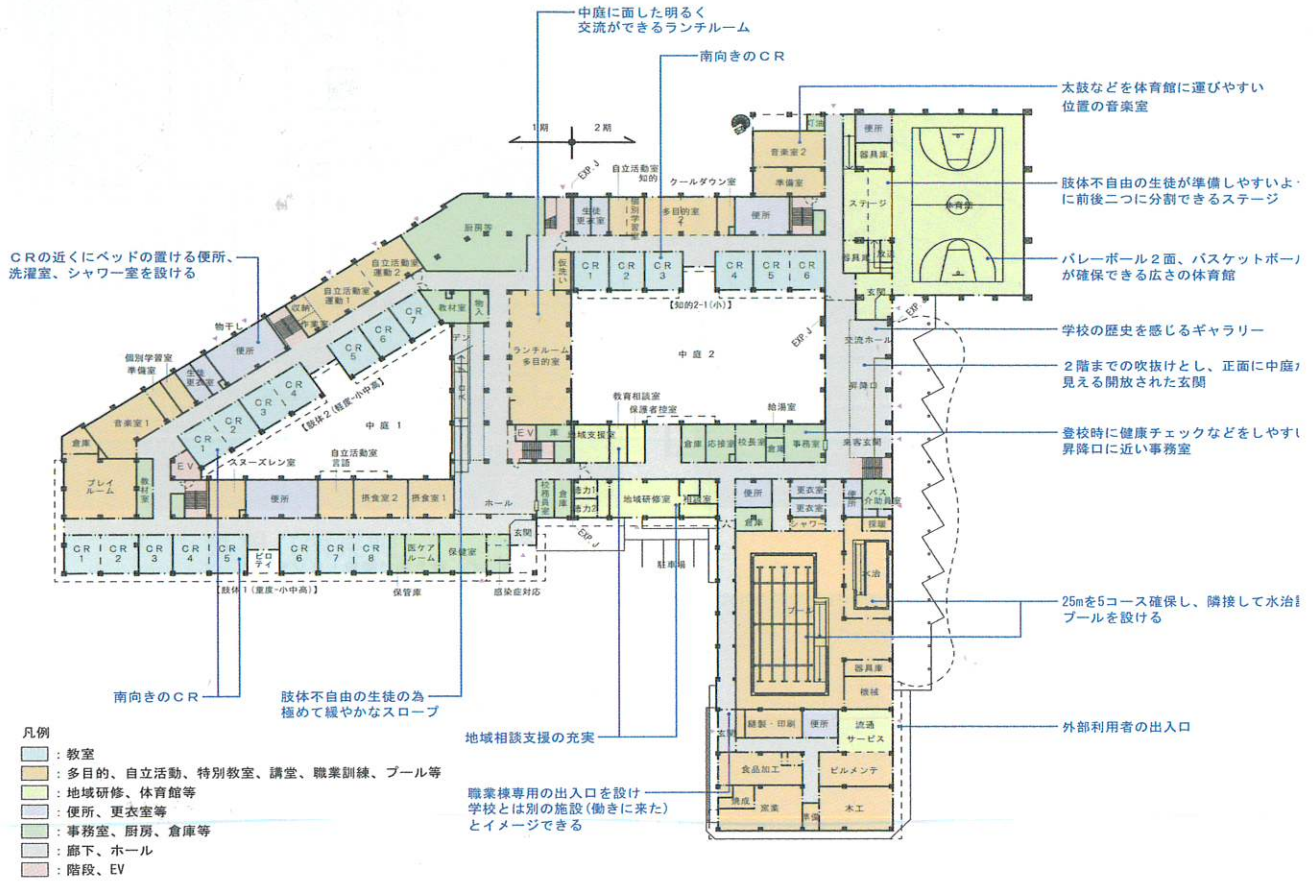
12 完成時鳥瞰図



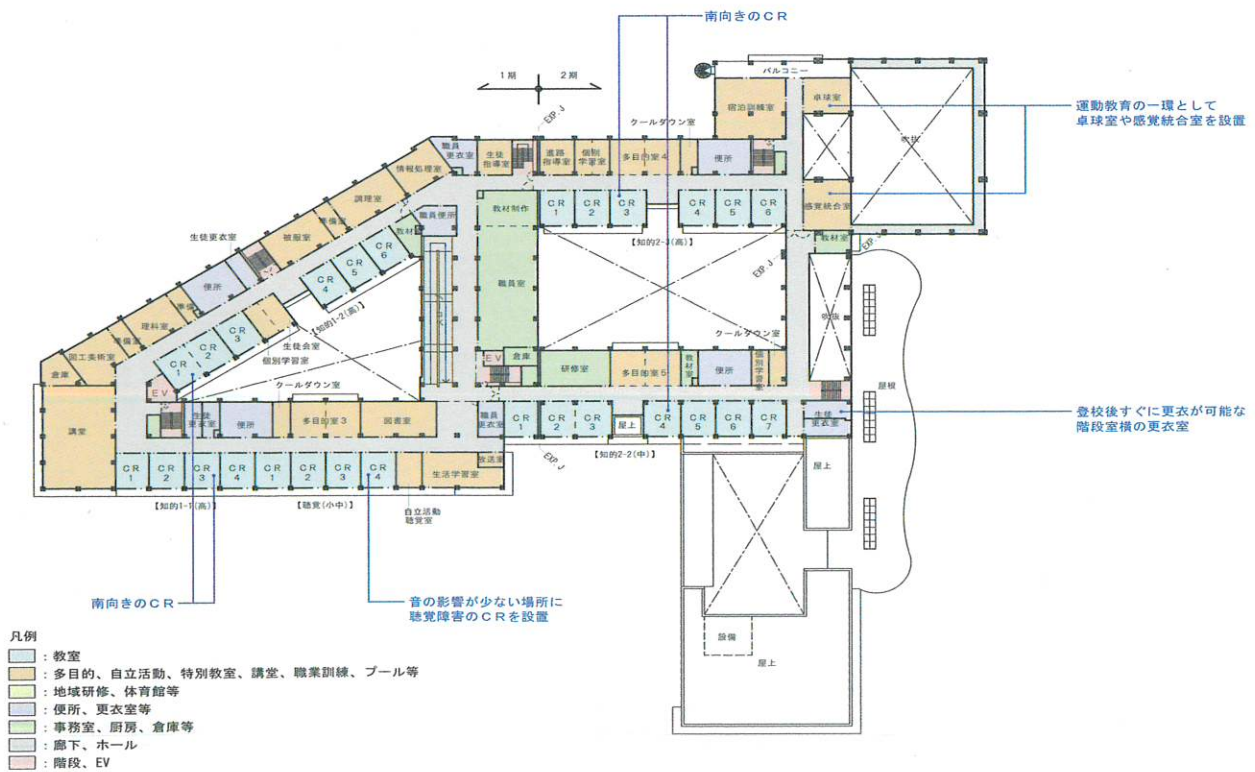
13 配置図、平面図



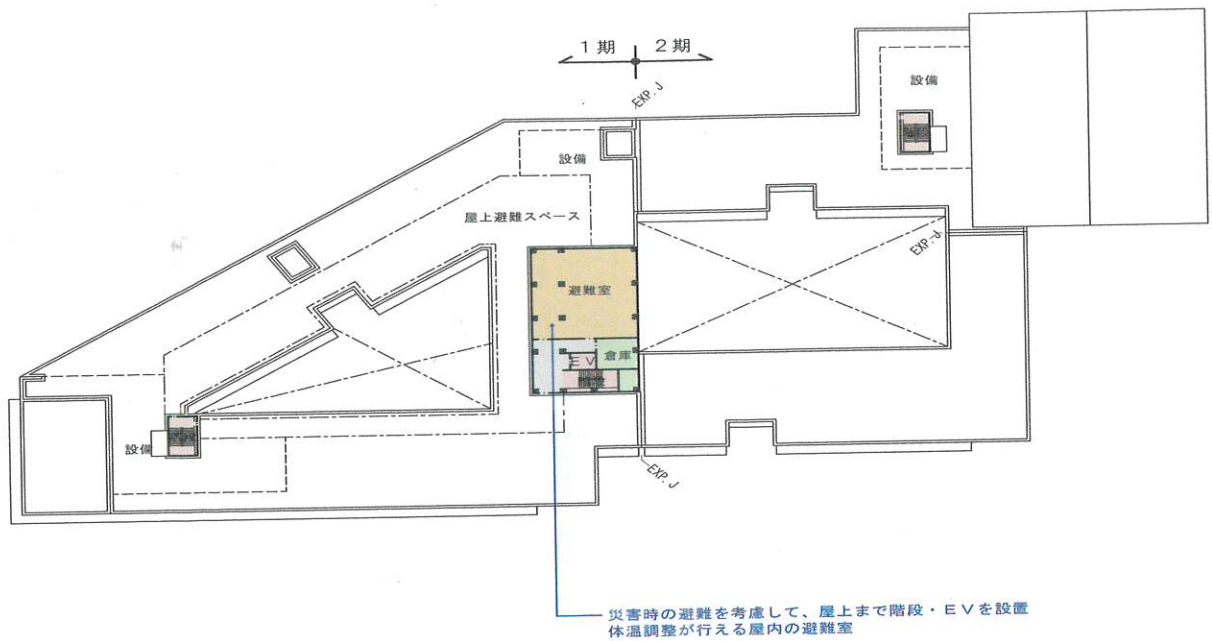
配置図



1階平面図



2階平面図



- 凡例
- : 教室
 - : 多目的、自立活動、特別教室、講堂、職業訓練、プール等
 - : 地域研修、体育館等
 - : 便所、更衣室等
 - : 事務室、厨房、倉庫等
 - : 廊下、ホール
 - : 階段、EV

3階平面図

14 写真



航空写真（南東側面）



外観（南東側）



リハビリパーク



中庭



屋上



エントランス



廊下



エレベーターホール



スロープ



デン (スロープ下)



教室



個別学習室



スノーズレン室



プレイルーム



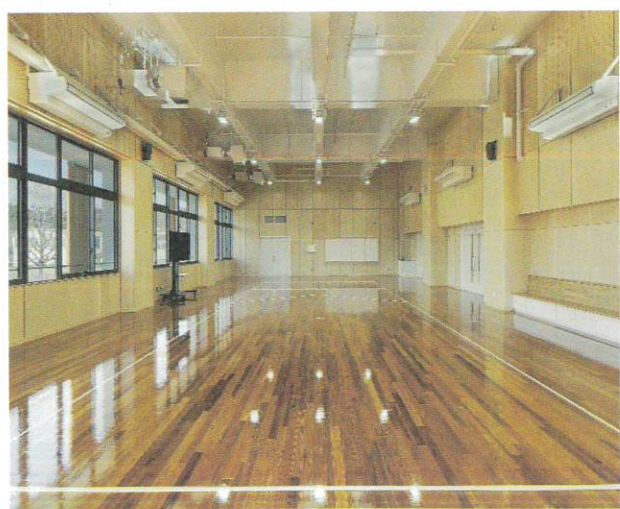
自立活動室



調理室



生活学習室



講堂



音楽室



ランチルーム



厨房



感染症対応ルーム



医ケアルーム



トイレ



図書室